

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた単元構想〈中・保健体育〉

特別研修員 保健体育 下田 勝己（中学校教諭）

単元名 『柔道』（第1学年） 全8時間計画

単元のねらい

柔道固有の所作や礼法、受け身を身に付けるとともに、意見交流を通して抑え込み方やその技からの逃れ方を考え、身に付けた技能を用いて積極的に簡易試合に臨むことができるようにする。

単元構想の意図

本単元では、柔道のだご味を味わいながら柔道固有の所作や礼法、技能を身に付けます。また、ねらいに迫る手段としてグループでの活動時間を多く設定します。つかむ過程では、所作や礼法が単に正しくできるようになるだけでなく、その由来や意義についても考えさせた上で習得させます。受け身は、重要性を十分理解させた上でポイントを明確にして身に付けさせます。追究する過程では、グループでの考えを全体で共有しながら問題を解決していく学習過程を設定し、固め技に共通する抑え込むためのポイントを見付けたり固め技からの逃れ方について考えたりさせます。まとめる過程では、技能を正しく評価できる知識の定着と技能の高まりを実感するために簡易試合を実施します。そして単元の振り返りを通して本単元での学びをこれからの学びに生かしていけるようにしました。

過程

主な学習活動

1. 単元の見通しをもつ

- 学習の流れを理解し、これからの学習に対する意欲を高める。
- 安全に学習に取り組めるように、受け身を身に付けたり、固め技の攻防における禁止事項を知ったりする。



抑え込みの3条件

- ・概ね相手が仰向けの状態である。
- ・概ね互いに向かい合った形になっている。
- ・相手の脚で自分の胴や脚を挟まれていない。

禁止行為

- ・手で顔を押ししない。
- ・髪を引っ張らない。
- ・蹴る、叩く、殴る、エビ反り等の暴力行為を行わない。
- ・関節技を施さない。
- ・首を絞めない。
- ・「奪った」をしている相手を攻撃し続けしない。

- グループでの関わり合いを通して、条件を満たした抑え込み方を考える。



必要感をもたせるめあての提示

教師がめあてを提示するのではなく、生徒の言葉からめあてを引き出すことで生徒一人一人に必要感をもたせ、学習に対する意欲を高める。

学習意欲を高める工夫

初めから技の名称や形を教えるのではなく、三つの条件を満たしていれば抑え込み方は無限であることを伝えることで、学習に対する意欲を高める。

安全への配慮事項

活動前に禁止事項をしっかりと確認したり、グループ活動中に他のグループと接触しそうなどときには観察の担当が間に入ることを指示したりしておくことで、けがの防止に努める。

考えを深める意見交流

「受」（技を掛けられる人）・「取」（技を掛ける人）・「観察」に役割分担し、異なる立場から意見交流させることで考えを深めさせる。

様々な考え方が生まれやすくなるための工夫

いろいろな逃れ方が見付けられるように、「取」には力を加減して抑え込ませ「受」が逃げやすい状態にする。

思考を深めさせる工夫

他の生徒の考えを参考にしながら新たな考えが生まれるように、適宜、個やグループの考えを全体に発表する場面を設定する。

理解を深める振り返り

本時の学びを振り返る場面では、発表による振り返りで終わりにせず、実際に実演し体感しながら振り返ることで、より理解を深め確実な習得につなげる。

知識の定着を図る役割設定

生徒に審判をさせることで、ルールに則った正しい評価ができる力を養いながら知識の定着を図る。

学びに向かう力の育成

本単元で学んだことをこれからの学習や生活にどのように生かしていくかを考える機会を設ける。

つかむ(3)

2. グループ活動を通して、技能のポイントを見付けながら技能を身に付け高めていく

- 抑え込むときのポイントについて考える。
- けさ固めと横四方固めを身に付ける。
- 役割分担しながら、けさ固めと横四方固めから逃れるためのポイントを見付けたり伝え合ったりする。



追究する(3)

3. 技能の高まりを実感するための大会を実施し、単元の学びを振り返る

- 簡易試合に向けてチームで練習する。
- 勝利を目指して簡易試合に取り組む。



まとめる(2)

指導例：『柔道』（第1学年 第3時）

指導のポイント

1 本時の学習内容への興味・関心をもつ。

○抑え込みの条件を知る。

T:柔道で相手に勝つための方法にはどんな方法がありますか。

S:相手を投げたり、相手を抑え込んで動けなくしたりすると勝ちになるよね。

T:相手に勝つ方法の一つである抑え込みには、「相手が仰向けである」、「互いに向かい合っている」、「胴や脚を挟まれていない」の三つの条件があります。また「手で顔を押さない」、「髪を引っ張らない」、「首を絞めない」等の禁止行為もあります。

S:単に相手を動けなくするだけでは抑え込んだことにはならないんだね。

S:自分がけがをしたり、相手にけがをさせないためにも正々堂々と戦うことが大事だな。

2 本時のめあてをつかみ学習の見通しをもつ。

T:グループで、抑え込みの三つの条件を満たしたいろいろな抑え込み方を考えてみよう。

めあて 抑え込みの条件を満たした抑え込み方を考えよう。

S:どこを抑えると相手は動けなくなるかな。

3 めあてに迫るための活動を行う。

○グループで抑え込みの条件を満たした抑え込み方を考える。

T:グループで「受」・「取」・「観察」とに役割分担しながら、条件を満たした抑え込み方を考えてみよう。

S:相手がうつ伏せになれないようにするには、どこを抑えれば効果的なんだろう。

S:腕の力だけでなく、体全体を使って相手を抑えようとうまく抑えられそうだね。

S:この抑え方だと力が強い相手には通用しないかもしれないな。



4 グループの考えを全体で共有する。

○グループで考えた抑え込み方を発表する。

T:工夫した点を説明しながら、グループで考えた抑え込み方を発表してみよう。

S:自分の体を相手に密着させると相手が動けなくなって、うまく抑えられたよ。

S:脚を挟まれないように、自分の脚で相手の脚を挟んだらうまくいったよ。



5 本時のまとめ・振り返りをする。

○発表で知った抑え込み方をグループで実演し、ポイントを確認する。

T:他のグループの人たちが考えた抑え込み方を実際にやってみて、それぞれのポイントを確認しよう。

S:自分の体重をしっかりとかけると、相手は逃げられなくなるね。

S:相手の腕や脚を動けなくするとうまくいったよ。

安全への配慮①

○活動前に禁止行為をしっかりと確認することで、怪我の防止に努める。

学習意欲を高めるための工夫

○初めから技の名称や形を教えるのではなく、三つの条件を満たしていれば抑え込み方は無限であることを伝えることで、学習に対する意欲を高める。

安全への配慮②

○「観察」には自分のグループだけを見るのではなく、他のグループの動きにも注意を払わせ、接触しそうときには間に入るように指示しておく。

理解を容易にするための支援

○実演者には向きを変えさせながら発表させたり、見せたい動きが見える場所に見学者を移動させたりすることで、ポイントとなる動きの理解が容易にできるようにする。

指導例：『柔道』（第1学年 第6時）

1 本時の学習内容への興味・関心をもつ。

○前時までの学習を振り返るとともに、抑え込まれた状態から負けないための方法について問い掛ける。

T:柔道では抑え込まれたままだと負けてしまうね。では、負けないためにはどうすればいいかな。

S:どうにかして逃げる！

2 本時のめあてをつかみ学習の見通しをもつ。

T:そうだね。では、今日は抑え込まれたときにどうやったら逃げる事ができるかを考えてみよう。

めあて けさ固めと横四方固めから逃れるためのポイントを見付け伝え合おう。

S:いろいろな方法を見付けられるといいな。

3 グループで考えたことを全体で共有しながらめあてに迫る。

○グループでけさ固めと横四方固めからの逃れ方を考える。

T:抑え込まれた状態から逃げたことになるには、どんな状態になったらいいのかな。

S:抑え込みの三つの条件から一つでも抜け出せれば、逃げたことになると思うよ。

T:そのとおり！では早速、グループで色々な逃げ方を考えてみよう。

S:横四方固めのポイントは体を密着させることだから、そこを崩せば逃げられそうだよ。

S:一度フェイントを入れると体を回転させやすくなって、うつ伏せになることができたよ。

S:けさ固めのときは、取を力任せに後ろに倒すと逃げる事ができたよ。でもこの方法は体が大きな人には通用しないのが欠点なんだよな…。

T:取を後ろに倒すというのはよいアイデアだね。ではこのアイデアを生かしながら、体が大きな人にも通用する逃げ方を考えてみよう。

S:けさ固めでもフェイントを入れてから後ろに倒すと、うまく逃げられそうだね。



けさ固めと横四方固めのポイント

けさ固め

- ・首を抱え込む。
- ・脚はハードルの形でしっかり開く。
- ・左脇で相手の右手首をしっかり挟む。
- ・上体はあまり倒しすぎない。

横四方固め

- ・首を抱え込む。
- ・体重をしっかりと相手にかける。
- ・しっかりと密着する。

4 グループで学習を振り返り、全体で本時のまとめをする。

○グループで逃れ方のポイントを確認しながら実演し振り返る。

T:他のグループの人たちが考えた逃げ方をやってみて、それぞれのポイントを確認しよう。

S:動きたい方向と逆方向にフェイントを入れるとうまくいくね。

S:自分と相手の体の間に空間を作ると回転しやすくなって逃げられたよ。

○全体で逃れ方のポイントを確認する。

S:逃げる時にフェイントを入れると相手の力が利用でき、力が強い相手や体格差があっても逃げやすくなるね。

S:自分が動きやすくなるためには、自分と相手との間に隙間を作るのが効果的だね。



指導のポイント

必要感をもたせるめあての提示

○教師がめあてを提示するのではなく、生徒の言葉からめあてを引き出すことで必要感をもたせ、学習に対する意欲を高めさせる。

考えを深めさせる意見交流

○「受」「取」「観察」とに役割分担し、異なる立場から意見交流させることで、考えを深めさせる。

様々な考え方が生まれやすくなるための工夫

○意図的に「取」には加減して抑え込ませ、「受」が逃げやすい状況を作ることで、いろいろな逃れ方を見付けやすいようにする。

生徒の考えを基に思考させる場面の設定

○他の生徒の考えを参考にしながら新たな考えが生まれるよう、適宜、個やグループの考えを全体に発表する場面を設定する。

振り返りの工夫

○振り返りの場面では、発表や記述による振り返りで終わりにせず、実際に実演し体感しながら振り返らせることで、より理解を深め確実な定着につなげる。

指導例：『柔道』（第1学年 第8時）

1 これまでの学習について振り返る。

○これまでの学習を通して、発見したことや解決してきたことについて問い掛ける。

T:これまでの授業で学んだり身に付けたりしたことはどんな内容だったかな。

S:相手を抑え込むための技やその技からの逃げ方を考えたよね。

S:技だけでなく礼法や受け身についても学習したよ。

2 本時のめあてを知り、学習の見通しをもつ。

めあて 団体戦による簡易試合において、受け身の出来栄を競い合ったり、身に付けた技を使って相手を抑え込んだりしよう。

3 これまでの学習成果を試す。

○団体戦による簡易試合を通して、これまでに身に付けた技能のできばえを競い合う。

T:今まで学習してきたことを生かし、チームで協力しながら試合に取り組もう。

S:メンバー全員で試合に向けて注意する点を確認しておこう。

S:試合は1対1で戦うけど、団体戦だからチームが勝つためには互いに励まし合ったりアドバイスを送ったりすることが大事だね。

T:審判は全員やるので、それぞれの技能ポイントをしっかりと整理しておくこと。また判断した理由も説明できるようにしておこう。

S:それぞれの技のポイントやコツをしっかりと理解していないと、正しく判断したり説明したりできないぞ。



4 本時のまとめと単元の振り返りをする。

○試合を通して感じたことを発表する。

T:試合をしてみて感じたことはどんなことですか。

S:これまでの授業で発見したり教わったりした技を試合で出すことができたぞ。

S:応援のおかげで、最後まで諦めずに試合をすることができたよ。

S:正々堂々と戦うと、勝敗に関係なくすがすがしい気分になるよね。

○柔道の授業を通して学習したことを、今後どのように生かしていきたいかを問いかける。

T:柔道の授業を通して学んだことや身に付けたことで、これからの学習や生活に生かせることは何だろう。

S:フェイントを使うという考え方は、柔道以外の授業でも使えそうだな。

S:柔道の授業で身に付けた礼法は、生活の中でもたくさん生かせるね。



指導のポイント

学習内容の全てを競い合うことができる試合内容

○道衣の着方や所作、礼法を含め単元を通して学習した内容全てのできばえで競い合う試合構成にする。

先鋒：受け身
次鋒：けさ固めへの移行と形
中堅：横四方固めへの移行と形
副将：片膝立ちからの攻防①
大将：片膝立ちからの攻防②

知識の定着を図る役割設定

○生徒に審判をさせることで、ポイントを押さえた正しい評価ができる力を養う。

様々な技能が発表できる場面設定の工夫

○オーダー順を毎試合変更させることで、様々な技能が発表できる場面を設定する。



学びに向かう力の育成

○本単元で学んだことをこれからの学習や生活にどのように生かしていくかを考える機会を設ける。

保健体育科学習指導案

平成30年9月～10月 第1年学年 指導者 下田 勝己

I 単元名 武道「柔道」

II 学習指導要領上の位置付け

(1) 知識及び技能

技ができる楽しさや喜びを味わい、武道の特性や成り立ち、伝統的な考え方、技術の名称や行い方、その運動に関連して高まる体力などを理解するとともに、基本動作や基本となる技を用いて簡易な攻防を展開すること。

ア 柔道では相手の動きに応じた基本動作や基本となる技を用いて、投げたり抑えたりするなどの簡易な攻防をすること。

(2) 思考力、判断力、表現力等

攻防などの自己の課題を発見し、合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに、自己の考えたことを他者に伝えること。

(3) 学びに向かう力、人間性等

武道に積極的に取り組むとともに、相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守ろうとすること、分担した役割を果たそうとすること、一人一人の違いに応じた課題や挑戦を認めようとする事などや、禁じ技を用いないなど健康・安全に気を配ること。

III 目 標

柔道固有の所作や礼法、受け身を身に付けるとともに、意見交流を通して抑え込み方やその技からの逃れ方を考えたり習得したりし、身に付けた技能を用いて積極的に試合に臨むことができるようにする。

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開 (3/8)

- ねらい グループでの関わり合いを通して、抑え込みの条件を満たした抑え込み方を意欲的に考えさせる。
- 展開

学習活動 (分) ○ : 留意点 点線囲 : 評価 ☆ : 振り返りの子供の意識

1 本時の学習内容への興味・関心をもつ。(10分)

○抑え込みの条件を伝える。

- ・おおむね相手が仰向けの状態である。
- ・おおむね互いに向かい合った形になっている。
- ・相手の脚で自分の胴や脚を挟まれていない。

○固め技の攻防の際の禁止事項を伝える。

- ・手で顔を押さない。 ・髪の毛を引っ張らない。 ・関節技を施さない。
- ・首を絞めない。 ・蹴る、叩く、殴る、エビ反り等の暴力行為を行わない。
- ・「参った」をしている相手を攻撃し続けない。

2 本時のめあてをつかみ学習の見通しをもつ。(5分)

めあて 抑え込みの条件を満たした抑え込み方を考えよう。

3 めあてに迫るための活動を行う。(15分)

- 抑え込みの条件を満たした抑え込み方をグループで考えさせる。
- 抑え方次第では、体格や力の差を克服できることを伝え、意欲を高めさせる。
- 「受」「取」「観察」とに役割分担し、違う立場から意見交流させる。
- 腕の力だけで抑えるのではなく、体全体を使って抑えることが効果的であることを助言する。

4 グループの考えを全体で共有する。(10分)

○実演者には工夫した点を説明させながら発表させる。

抑え込みの条件を満たした抑え込み方を意欲的に考えることができる。

< 観察・ワークシート・発言 (2) >

5 本時のまとめ・振り返りをする。(10分)

- 発表された抑え込み方を実演させ、ポイントを確認する。
- ☆自分の体重をしっかりかけると、相手は逃げられなくなるね。
- ☆相手の腕や脚を動けなくするとうまくいったよ。

V 本時の展開 (6/8)

- ねらい グループ活動を通して、けさ固めと横四方固めから逃れるためのポイントを見つけ、それを伝え合うことができるようにする。
- 展開

学習活動 (分) ○ : 留意点 点線囲 : 評価 ☆ : 振り返りの子供の意識

1 本時の学習内容への興味・関心をもつ (10分)

○抑え込まれた状態が継続すると負けになってしまうことを確認し、抑え込まれた状態から負けないための方法について問い掛ける。

2 本時のめあてをつかみ学習の見通しをもつ。(5分)

めあて けさ固めと横四方固めから逃れるためのポイントを見つけ伝え合おう。

3 グループで考えたことを全体で共有しながらめあてに迫る。(25分)

- 抑え込みの条件からどのような状態になったら逃れたことになるのかを問い掛ける。
- 「受」「取」「観察」に役割を分担し、それぞれの立場からの視点をもとに意見交流させる。
- いろいろな逃げ方を見付けられるように、「取」には力を加減して抑え込ませ、「受」が逃げやすい状態にする。
- 逃げたい方向と逆の方向に体を向けたり押ししたりすると、「受」はどのように動くかを想起させる。
- 「受」の体のどの部分を押すと自分との間に隙間が生まれやすくなるかを考えさせる。
- 安全対策として禁止事項を確認したり活動スペースについて意識させたりする。
- 実演者には逃れるためのポイントを説明させながら発表させる。
- 他の生徒の考えを参考にしながら新たな考えが生まれるように、適宜、個やグループの考えを全体に発表する場面を設定する。

けさ固めと横四方固めから逃れるためのポイントを見付けたり、伝えたりすることができる。
＜観察・ワークシート・発言 (2)＞

4 グループで学習を振り返り、全体で本時のまとめをする。(10分)

- 発表を聞いて気付いたことや分かったことをグループで確認しながら反復させる。
- けさ固めと横四方固めからの逃げ方のポイントについて全体で確認する。
- ☆逃げるときにフェイントを入れると相手の力が利用でき、力が強かったり体格差があっても逃げやすくなるね。
- ☆自分が動きやすくなるためには、自分と相手との間に隙間を作るのが効果的だね。

V 本時の展開 (8/8)

- ねらい 今まで身に付けた技能の出来栄を競い合う簡易試合を通して、チームの勝利を目指し意欲的に活動し、チームや自分自身の学習成果を実感できるようにする。
- 展開

学習活動 (分) ○ : 留意点 点線囲 : 評価 ☆ : 振り返りの子供の意識						
<p>1 これまでの学習について振り返る。(5分)</p> <p>○これまでの学習を通して発見したことや解決してきたことについて問い掛ける。</p> <p>○受け身の反復練習と固め技の約束練習や自由練習をさせる。</p> <p>2 本時のめあてを知り、学習の見通しをもつ。(5分)</p>	<p>めあて 団体戦による簡易試合において、受け身の出来栄を競い合ったり、これまでに身に付けた技能を使って相手を抑え込んだりしよう。</p>					
<p>3 簡易試合を実施し、これまでの学習成果を試す。(35分)</p> <p>○試合前のチーム練習では、これまで身に付けた技能のポイントを再確認しながら練習させる。</p> <p>○試合方法をリーグ戦にすることで試合数を多くする。</p> <p>○オーダーを毎回変更させることで、身に付けた様々な技能を発表する場を設定する。</p> <p>○生徒に審判をさせることで、ルールにのっとった正しい評価ができる力を養いながら知識の定着を図る。</p>	<table border="1"><tr><td>先鋒：受け身</td></tr><tr><td>次鋒：けさ固めへの移行及び形</td></tr><tr><td>中堅：横四方固めへの移行及び形</td></tr><tr><td>副将：片膝立ちからの攻防①</td></tr><tr><td>大将：片膝立ちからの攻防②</td></tr></table> <p>発見したり習得したりした技能を活用しながら、積極的に試合に取り組むことができる。</p> <p style="text-align: center;"><観察・ワークシート・発言 (1)></p>	先鋒：受け身	次鋒：けさ固めへの移行及び形	中堅：横四方固めへの移行及び形	副将：片膝立ちからの攻防①	大将：片膝立ちからの攻防②
先鋒：受け身						
次鋒：けさ固めへの移行及び形						
中堅：横四方固めへの移行及び形						
副将：片膝立ちからの攻防①						
大将：片膝立ちからの攻防②						
<p>4 本時のまとめと単元の振り返りをする。(5分)</p> <p>○チームで学習の成果について意見交流させる。</p> <p>☆チームメイトの応援のおかげで、最後まで諦めずに試合をすることができたよ。</p> <p>☆正々堂々と戦うと、勝敗に関係なくすがすがしい気分になるね。</p> <p>○柔道の授業を通して身に付けたことを、これからの学習や生活にどのように生かしていくかを考える機会を設ける。</p> <p>☆柔道の授業で身に付けた礼法は、生活の中でもたくさん生かせるね。</p> <p>☆フェイントを使うという考えは、柔道以外の授業でも使えそうだな。</p>						

指導計画 保健体育科 第1学年 単元名「柔道」(全8時間計画)

目標	柔道固有の所作や礼法、受け身を身に付けるとともに、意見交流を通して抑え込み方やその技からの逃れ方を考えたり習得したりし、身に付けた技能を用いて積極的に試合に臨むことができるようにする。			
評価規準	(1) 柔道に積極的に取り組むとともに、攻防や話し合い活動を通じて相手や仲間の意見を尊重し、柔道固有の作法を守ろうとする。 (2) 仲間との交流を通して、抑え込み方やその逃れ方のポイントやけがをしないための受け身のポイントを見付けたり、伝え合ったりする。 (3) 動作の由来を理解したうえで柔道固有の所作や礼法ができたり、理にかなった固め技やその逃れ方、けがをしないためのポイントを押さえた受け身ができたりする。 (4) 柔道の成り立ちや伝統的な考え方、技の名称やその行い方が分かる。			
過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り (意識)	◇評価項目 〈方法 (観点)〉
つかむ	1	○学習の流れを理解するとともに、柔道のだいが味や嘉納師範の教えを知ったり、「帯の結び方」、「座礼」、「立礼」、「立ち方」、「座り方」等を身に付けたりする活動を通して、今後の学習に対する意欲を高めさせる。 柔道のだいが味を知るとともに柔道衣の着方やたたみ方、帯の結び方、座礼、立礼、立ち方、座り方を身に付けよう。	☆初めて柔道衣を着たけれど、着ているだけで強くなった感じがして、これからの授業が楽しみだ。 ☆柔道を学ぶことで精神面も成長できそうだ。	◇柔道のだいが味や柔道固有の所作や礼法についての理解を通して、これからの学習に対して意欲を高めることができる。 〈観察・ワークシート・発言 (1) (4)〉
	2	○受け身の習得を通して、投げられたときに自分自身で安全が確保できるようにする。 投げられたときにけがをしないための対処法である後ろ受け身と横受け身を身に付けよう。	☆どの受け身も頭を打たないようにしっかりと顎を引くことが重要だ。 ☆正しい受け身ができれば、相手に投げられてもけがすることはないのでしっかりと身に付けよう。	◇正しい「後ろ受け身」、「横受け身」ができる。 〈観察・ワークシート・発言 (3)〉
	3	○グループでの関わり合いを通して、抑え込みの条件を満たした抑え込みの方を意欲的に考えさせる。 抑え込みの条件を満たした抑え込み方を考えよう。	☆自分の体重をしっかりとかけると、相手は逃げられなくなるね。 ☆相手の腕や脚を動けなくするとうまくいったよ。	◇意欲的に抑え込みの条件を満たした抑え込み方を考えることができる。 〈観察・ワークシート・発言 (2)〉
追究する	1	○グループでの関わり合いを通して、抑え込むときのポイントについて考えさせる。 どんな相手でも逃げられないように、抑え込むときのポイントを見付けよう。	☆抑え込みの方法はいろいろあるけれど、抑え込むときのポイントは共通点が多いぞ。 ☆まさしくこれが嘉納師範が言っていた「柔よく剛を制す」だな。	◇抑え込みのポイントを見付けることができる 〈観察・ワークシート・発言 (2)〉
	2	○教師や経験者の示範を参考に、けさ固めと横四方固めを身に付けさせる。 代表的な固め技であるけさ固めと横四方固めを身に付けよう。	☆左脇で相手の手首をしっかりと挟み込むことが重要だ。 ☆上半身が仰向けになりすぎないようにするとしっかりと抑え込めたぞ。	◇正しい形のけさ固めができる。 〈観察・ワークシート・発言 (3)〉
	3	○グループ活動を通して、けさ固めと横四方固めから逃れるためのポイントを見付け、それを伝え合うことができるようにする。 けさ固めと横四方固めから逃れるためのポイントを見付け伝え合おう。	☆逃げるときにフェイントを入れると相手の力が利用でき、力が強かったり体格差があっても逃げやすくなるね。 ☆自分が動きやすくなるためには、自分と相手との間に隙間を作ると効果的だね。	◇けさ固めと横四方固めから逃れるためのポイントを見付けたり、伝えたりすることができる。 〈観察・ワークシート・発言 (2)〉
まとめる	1	○簡易試合に向けて、チームでオーダーを考えたり練習したりさせる。 簡易試合に向けて、オーダーを考えたり互いに教え合ったりしながらチーム力を高めよう。	☆それぞれの長所を生かしたオーダーを考えることができたね。 ☆みんなからのアドバイスのおかげで、自信をもって試合に臨むことができそうだ。	◇メンバーの特性に応じてチームにとって最適なオーダーを考えたり、技能の向上に向けて適切なアドバイスができる。 〈観察・ワークシート・発言 (2)〉
	2	○今まで身に付けた技能の出来栄を競い合う簡易試合を通して、チームの勝利を目指し意欲的に活動し、チームや自分自身の学習成果を実感できるようにする。 団体戦による簡易試合において、受け身の出来栄を競い合ったり、これまでに身に付けた技能を使って相手を抑え込んだりしよう。	☆応援のおかげで、最後まで諦めずに試合をすることができたよ。 ☆正々堂々と戦うと、勝敗に関係なくすがすがしい気分になるね。	◇発見したり習得したりした技能を活用しながら、積極的に試合に取り組むことができる。 〈観察・ワークシート・発言 (1)〉